

「オーディオ少年」

先日、約10数年間酷使している「CD／MD／カセット・AM／FMコンポ」が壊れた。音響機器の故障なんて通常考えられないが、原因は案の定「5連奏CDの駆動装置」であった・・・・所謂機械的な故障である。メーカーに送つて修理を依頼したら見事に回復した。顧みれば、5連奏のCDステレオは都合2台にわたり約30年以上お世話になつていて、ジャンルの違う5枚のCDをセットし、ランダム演奏で聴くのが僕の流儀だつたせいで、一枚ずつCDを入れ替えながらのオーディオ生活は何故か考えられなかつたのだが・・・

さて新しいオーディオ機器の新製品をあれこれ物色していると、最近のオーディオ環境も随分と変貌を遂げ、今や多くの音楽はMP3音楽ファイルに変換され、SDやUSB等に保存されるようになり、このメディアを使つた新しいオーディオ機器類が幅を利かせているのに気が付いた。音楽までもが着実に「デジタル化」への道を邁進している。

早速新しく「ケンウッドCD／SD／USBオーディオシステム」を購入した。小型のコンポだが充実した性能には舌を巻く。スピーカーが小さいと思って、別の「3・1サラウンドスピーカーシステム」に転送して聴いている。これにSDカード（又はUSB）を挿入しておけば、数千曲以上の音楽ファイルの連続・ランダム再生も可能となり、CDの5連奏どころの話ではなくなつた。一方FM／CD／外部アンプからの

音楽をSDへコピーも可能で、世界で一つしかない自分のライブラリーが出来上がる。この小さなカードさえあれば、僕が60年間で蒐集したあらゆるジャンルの音楽の、山の様なレコード・カセットテープ・CD・MD等という「音楽の収納」の悩みからも解放される。

中学生の頃、ジャズ・ポップス・クラシック等の音楽の魅力を知り、以後レコードを随分買い込み楽しませてもらった、そんな純粋な一昔前でさえ、ボタンひとつでレコードがチェンジできるあの「ジュークボックス」が我が家にあればどんなに便利だろうと邪悪な夢を見ていた事さえある。

僕の場合は、言つなれば、セツカチ（時間に厳格？）と面倒臭がり（合理的な行動？）の「オーディオ少年」で、按摩椅子に座つたまま一步たりとも動かず、リモコンを握りしめ、音量やプリセットのFMのチューニングは勿論の事、カセットやMDや5枚のCD演奏も全てリモコンでの選択操作・・・といふ具合なので、卑しくも神聖なる「オーディオマニア」と呼ぶに値するとは全く思つてもいない。

本来の正統なオーディオの楽しみ方は、心静かに・おもむろにレコードやCDを収納ラックから一枚取り出し・クリーナーでまず掃除し・期待に胸を膨らませ・静かに演奏を始める・・・といった「シチュエーション」「作りこそが大事なオーディオ鑑賞のマナーであるはずなのだが。そういえば、僕らの同輩には、聞くところ結構本格的な「オーディオ

マニヤ」達もいぢつしゃるようで、アンプやスピーカーセットに凝り「微妙な音質の違い」だとか「デジタルよりレコード針で聞くアナログの音の方が・・・」といづプロ並みの世界もあるようだが・・・。

早速、手持ちの想い出深い100枚近いCDの全曲（1400曲）を1枚のSD（8GB）に移設し終えた。他にレコード・カセットも山のように有るが、残念な事に音質低下があり、断念した。

さてその次は、今迄僕の琴線を震わせた数々の懐かしい曲・・・小学生時代のラジオから流れる新鮮な歌謡曲・・・中学生の思春期の心を騒がせたポップス・ジャズ曲の数々・・・高校時代一台のラジオを部屋の左右に並べて必死で聴いたステレオ放送のクラシック曲の数々・・・大学時代泣けなしの小遣いで見入った映画の忘れられない音楽・・・これらの曲をネット情報から（改めて1曲ずつ取り込み、ひと月かけて約700曲近くにもなったが、1枚のSD（4GB）に収めた。

「SDカード」の人智を超えた記憶力、「SDコンポ」の超便利さ・・・という、僕たちの若い頃には存在しなかつた時に「デジタル技術」にアナログ少年は唯々感嘆するばかりで、瞬く間に2000曲のマイアルバムが完成した。

聴きたい曲目を狙い撃ちにして聴くのも良いが、僕の血肉となつたこれら2000曲をランダム演奏で聴くのも良い。予期せぬ懐かしい曲が突然脳内に響き、しばらく眠っていた昔の記憶のスイッチがONにな

るという不思議な感覚を味わうのも退化を始めた脳への良き刺激になつて、又一興である……。

半日按摩椅子に座り、



林伊佐緒「ダンスパーティーの夜」→バッハ「バルティータ」→森山良子「セフィニ→ショパン「幻想即興曲」→ナットキングコール「キサス キサス」→船村徹「乱れ髪」→グリーグ「ピアノコンチェルト」→稻垣潤一「ドラマティックレイン」→ブームス「ハンガリヤン舞曲」→アダモ「雪が降る」→メンテルスゾーン「バイオリンコンチェルト」→山下達郎「クリスマスイブ」→ベンデル「水上の音楽」→ゴッドファーザー「愛のテーマ」→福田蘭童「笛吹童子」→朝な夕な「真夜中のブルース」→「春の海」宮城道雄・シュメエ→スメタナ「モルダウ」→地獄の黙示録「ワルキュー」→リスト「ハンガリー狂詩曲2番」→松島詩子「マロニエの木陰」→シベリウス「フィンランディア」…

恐らく数年間は飽きる事のない約200曲のラムダム演奏、僕の手造りのシナリオと悪魔の演出による「古記憶の蘇生ドラマ」に浸ることが出来る何年か先、「脳梗塞－認知症」になってしまった僕を蘇生されられるのはこの小さな「SDカード」かもしれない・・・と妻には言い渡してある。

我らが同輩の本格的な「オーディオマニア」の皆さんとは別次元の話で、ドーカー・スミマセン。